

⑤ 第5委員会

「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」



それでは、第5委員会の意見を発表します。

第5委員会のテーマは、「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、私^{わたし}たちは7月23日に中央卸売市場^{おろしうり}本場の施設見学を行いました。そこで、私^{わたし}たちは、マイナス25度の冷蔵^{れいぞうこ}庫があることを知りました。そして、そのような大きくて温度を低く管理できる冷蔵^{れいぞうこ}庫があることで、食品^{いた}が傷みにくく、安心、安全、衛生^{えいせい}を守ることができているということがわかりました。

また、私^{わたし}たちは、いろんな国のいろんな種類の食べ物を見ました。

そして、226万人の食べ物を安定的に届けるには、第一に地産地消ですが、外国のいろんなところに頼^{たよ}って輸入^{ゆにゅう}しなければならないことがわかりました。そのために、外国との交流も大切だなということを感じました。その後、私^{わたし}たちは、施設見学をしてわかったことや感じたことをもとに、名古屋を「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするためには何をすればいいかを考えました。

それでは、私^{わたし}たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

食品は、^{ふつう}普通にスーパーで売っているのではなく、動物を育てる人、食品を運ぶ人、市場で売る人、スーパーで食品を売る人が協力し合っ^{わたし}て私たちの口に運ばれてくるのがわかりました。そして、その食品を大事にして、^す捨てたりしないということを一人一人が考えていけば、とてもよい名古屋のまちになると思います。

○子ども議員

^{ぼく}僕が中央卸売市場で最も印象に残ったことは、中部水産株式会社のビルのような建物の中に魚や果物をマイナス50度からプラス10度まで五つも^{れいぞう}冷蔵のための部屋があるということです。^{ぼく}僕は、中央卸売市場^{おろしうり}を見学して、名古屋は「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」だということを実感しました。



○子ども議員

名古屋市を「食べ物が安定的に届くまち」にするためにはどうしたらいいかについて意見を発表します。

僕は、もっと卸売市場をふやしたほうがいいと思いました。なぜかというと、一つの市場でたくさんの仕事をしていて大変だと思ったからです。市場をふやすことにより仕事をもっと分担できるので、よりスムーズになると思ったからです。

○子ども議員

名古屋市は、人口が200万人を超えていて、名古屋市に住んでいる人たち全員に食べ物を届くようにするには、愛知県産の農作物や肉、魚だけでは支え切れないので、ほかの県や外国に頼らなければならないところがあります。そのとき、外国との仲が悪くなると、食べ物が輸入できなくなる可能性があるので、外国との付き合い方は大切だと思いました。

○子ども議員

名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするには、どこで何がつくられているか、そして、どのようにして私たちのところへ届けられているのかを知る必要があります。そこから私は、いろいろな人の手が加えられているからこそ、私たちは食べることができるのだと思います。もし農家の人がいなかったら、スーパーやコンビニ、八百屋など売っている人がいなかったら、私たちは食べることができません。いろいろな人がいるからこそ食べることができるのです。

○子ども議員

私は、食べ物を新鮮なうちに消費者に届けることができる地産地消活動を進めようと思いました。そのために、スーパーの中に地産コーナーを設けたり、道の駅のように地元でとれたものを安く販売する地産市場をつくったりしたいです。地産コーナーや地産市場とは、愛知でとれたものだけを販売します。また、品物表示の際には、県名だけでなく市町村名も表示し、できれば顔写真も表示したほうがより安心して商品を買えると考えました。私は、外国の輸入も大切だけれど、地産地消こそが一番大切だと思いました。

○子ども議員

名古屋を「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするには、検査^{けんさ}をたくさん行ったりして状態^{じょうたい}を調べてから売ればいいと思いました。また、見学をたくさんして、安全安心に気をつけているということを伝えれば、安心してもらえと思いました。

○子ども議員

名古屋を「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするためには、市民、市場の人たち一人一人が日々いろんな努力と工夫をすることです。自分のための努力ではなく、ほかの人たちが安全に安心^{しんせん}に新鮮で食べることができるよう^せに努力や工夫をすることです。深夜や早朝に競りや販売^{はんばい}をして、新鮮^{しんせん}に届^{とど}けているそうです。そして、市民は新鮮な物^{しんせん}で見分けるので、新鮮な物^{しんせん}のしか買いません。そういう輪が必要だと思いました。



○子ども議員

名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするには、気候が悪く、野菜や果物、魚などがあまりとれないなどさまざまなトラブルが起これども、市場やスーパー、そして最後は私たちに注文どおり、希望どおりに届くように、出荷量の多い日に余ったものを冷蔵庫などで保管し、出荷量が少なく品物が足りない日に、その保管してあるものを足して、少しずつ調整するなどの対策を考えたらいいと思いました。

○子ども議員

私は、名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするには、グラフなど紙に書いてあるものはコンピューターなどで管理して、もっと機械化したらいいと思います。なぜかというと、コンピューターを使うと早くできて管理もしやすいし、出荷も早くできていいと思うからです。



○子ども議員

名古屋は食品を保存する施設がたくさんありますが、僕はその施設を充実させようと思いました。人が車両で運搬するだけでなく、天井や壁にカメラやロボット、自動クレーンを活用して、機械で効率よくスピーディーに運んだり、保管できるようにする。また、災害時の停電にも非常用の発電機で冷凍できるようにすれば、多くの食品を送り出す働きを保つことができます。昔よりも日本や世界の各地からものが集まったりしているので、今まで以上にものを大切にして、頼りにされる名古屋にしたいです。

私たち第5委員会は、このようなことが、名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするために必要だと考えました。

これで、第5委員会の発表を終わります。

■金庭経済水道委員長の答弁

第5委員会の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんと一緒にこの3日間、「食べ物が安定的に届くまち」ということを一緒に調査をし、そして研究をさせていただくことにかかわらせていただきました。本当に最初から最後まで真面目に真剣に皆さんが調査をして、そして力を合わせて研究発表されている姿を通して大変感動させていただきました。



皆さんは時間の都合で実際に見ることはできませんでしたが、深夜、皆さんがまだ寝ている間に競りをやったり、また食品を運んだり、いろんな多くの人がかかわって、そして検査をして、私たちの食卓に届くまでにそういった安心して食べられるものが届くまじということに、多くの方が一生懸命働いているということを知ることができたと思います。安心、そして安全で安定的に衛生的な食品を私たちが安心して食べられるというのは、この中央卸売市場の場所を見ても、皆さんがよくわかっていただけたということを発表いただきまして、大変感心をさせていただきました。

私たち名古屋市民 226 万人の食べ物を安定的に届ける。そのためにも、まずこの地元である名古屋、また愛知県の地産地消というものをもっと広げていったらどうだという意見もありましたし、ものを残さずに大切にしていきたい、こんなことも発表の中にありました。また、多くの食品を扱うには外国との交流というのもこれからも大事にしなければならぬ。非常に子ども議員さんならではのグローバルな視界に立っていただいて、大人も本当に感心しきりでございました。こういうことを通して、皆さん、どうかこの野菜と、それからまたお肉、お魚、さまざまな食品がありますけれども、私たちはそういったほかの生きていたものを口にしなければ私たちも生きることができないということも、よくよく御理解いただけたと思います。こういったことを今後もこの名古屋市が安定的に進めていけるように、私たち大人も頑張っていきたいと思えます。

子ども委員長さん、また子ども副委員長さんを中心として、また平田先生にもお手伝いをいただきました。皆さんの一番仲のいいグループで研究、そして発表していただいたことに心より感謝を申し上げまして、意見にかえさせていただきます。

大変御苦労さまでした。ありがとうございました。